

平成 28 年度新規課題

研究区分	農食研究推進事業	試験期間	H28~30
課題名	粗飼料自給率 100%を目指すアルファルファ単播草地の造成・管理法と省力的な収穫・調製技術の確立		
関連の重要研究課題名	Ⅱ 低コスト・省力化・高位安定生産技術の開発 牧草・飼料作物の高品質・安定栽培技術		
主担当試験場・部	畜産試験場・飼料環境部（共同機関：農研機構、千葉、山梨、新潟、雪印種苗）		

【現状と課題】

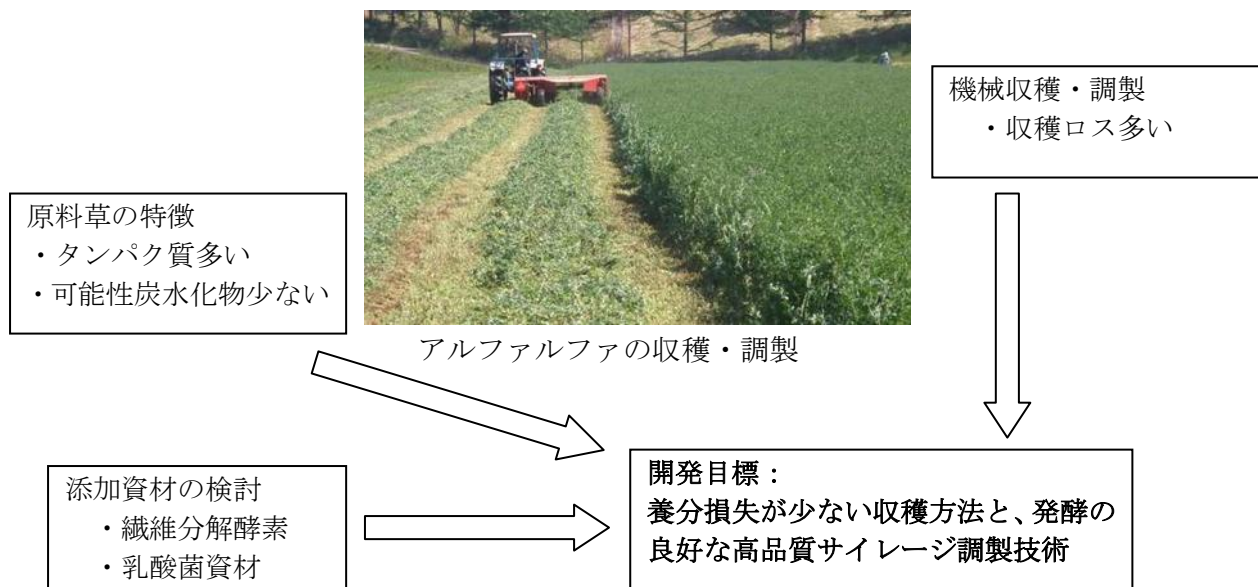
アルファルファは乳牛の飼料給与メニューに用いるタンパク質系飼料として重要であるが、ほぼ全量を輸入乾草に頼っている。経産牛 40 頭規模の酪農家では乾物で年間 60t（60 円/kg として 360 万円）程度のアルファルファを利用しており、これを自給飼料（47 円/kg）に切り替えれば飼料費が節減できる。

これまで当场では、長野県に適するアルファルファの品種として「ケレス」を選定し、普及に移した（平成 25 年度）。

一方、我が国の気象条件は降水量が多く、安定した品質の収穫調製が難しい。また、アルファルファはタンパク含量が高く、可溶性炭水化物が少ないため高品質なサイレージ調製が難しいとされる。そこで、降水に影響されにくく、良好なサイレージ発酵ができる収穫・調製方法を検討し、高品質で安定したロールベールサイレージを調製する技術を確認する必要がある。

【試験研究計画】

本研究では高品質なアルファルファの収穫・調製技術、ならびにアルファルファ草地の造成・管理技術を開発する。



【期待される成果】

1. 気象に左右されないアルファルファのサイレージ調製法が確立し、飼料費が節減される。
2. 輸入アルファルファ乾草を自給アルファルファサイレージに置き換えることにより、飼料自給率が向上する。